生成AIで進化する知財実務：作業部門から「経営インテリジェンス部門」へ

1 知財業務の再設計：AIファーストへの転換

レベル5：
経営意思決定のリード
AIによる戦略立案
・発明創出

レベル3-4：
IPランドスケープと経営示唆
機密情報を含む
高度分析

レベル1-2：
効率化とコスト削減

業務起点を「AI」へシフト

AIが初稿を作成し、人間は「評価・修正・例外処理」に回る新フローへ移行する。

AIエージェントによる自律代行

複数のAIが連携し、複雑な調査や分析タスクを自律的に遂行する段階に到達。

限界の突破と戦略化

従来コストや時間で諦めていた広域分析や複雑監視が、AIにより日常化する。

3 進化の成果：効率化の先にある経営貢献

30%の業務削減と付加価値向上

先進企業（島津製作所等）では年間1億円以上のコスト削減と戦略業務への転換を実現。

作業部門　　インテリジェンス部門

作業部門から インテリジェンス部門へ

浮いた時間を、事業の将来ビジョンや競合分析に基づく経営提言へ投資する。

作業部門から IPランドスケープ進化

先進企業（島津製作所等）では年間1億円以上のコスト削減と観測，経営情報以上へと戦略業務への転換を実現。

AI同士の「バトル」による精度向上

複数のモデルに検証させ合うことで、専門家レベルの高度な論理構築が可能になる。